

私立学校と「豆電球」

小岩利夫

自分や価値観が見えてくることも狙いの一つです。

十一月も半ばを過ぎてしまい、慌ただしい年末に近づいています。この時期、受験生を持つ親は、普段の忙しさに加えて、子供の進路を決めなければいけないという二重の苦勞が待っています。

私立学校の良さは、それぞれの学校の持つ建学の精神が教育に根付いていることや、個に対応した丁寧な指導が共通しています。

受験生の学校選びには、大学の進学実績も気になると思いますが、子供の特性を育てることや、本人がじっくり将来を考え、成長していく過程を大切にしていることも私学の大きな魅力です。本校でやっている創発学は、体験学習を通じて、個人の力を丁寧に引き出し、育てるプログラムです。

本校の中学では、徳育と将来を見据えたキャリア教育を合わせたものが、数多くの行事の中に計画的に組み込まれています。中学3年生では、自分のなりたい職業について調査し、どのような適性や力が必要か分析し、さらに十五年後の自分像をまとめて発表することになっていきます。親の仕事を見ていて興味を抱いた職業や、学校の先生や医者になりたい者など、いろいろです。直接関係する人会って取材をし、資料をまとめて考察を加えていく過程で、新しい

豆電球二つを電池に並列と直列につなぐ場合、並列につながれた電球は二つとも明るく光りますが、直列の方はそれに比べて暗いのが分かります。並列は、一つ一つの電球がそれぞれ電池に直接触れていますから、一つ一つが電池と直接繋がれているから明るいのです。

私立学校は、教師と生徒との接点を多くの行事や授業の中で持つことで、豆電球を並列に接続した状態と同じです。それぞれが直接繋がりが合うことで互いに研鑽し、輝きながら学び合い、喜びを共有する楽しい場になっているのです。